

黒潮町地震・津波ハザードマップ

NO.1 地区名：早咲・浜の宮・町・万行・入野本村・錦野・芝・緑野・下田の口・田野浦・出口・生華園

我が家の防災メモ

家族で話し合ってからかじめ記入し、家族みんながわかるところに置いておきましょう。

■家族の連絡先

家族の名前	連絡先(勤務先・学校)	電話番号	携帯電話	血液型
				型
				型
				型
				型
				型

■緊急連絡先リスト

機関名	電話番号	機関名	電話番号
黒潮町役場本庁	43-2111	中村警察署	34-0110
黒潮町役場佐賀支所	55-3111	四国電力 中村支店	34-2161
黒潮消防署	44-2600	NTT	113-0120-444-113(携帯)

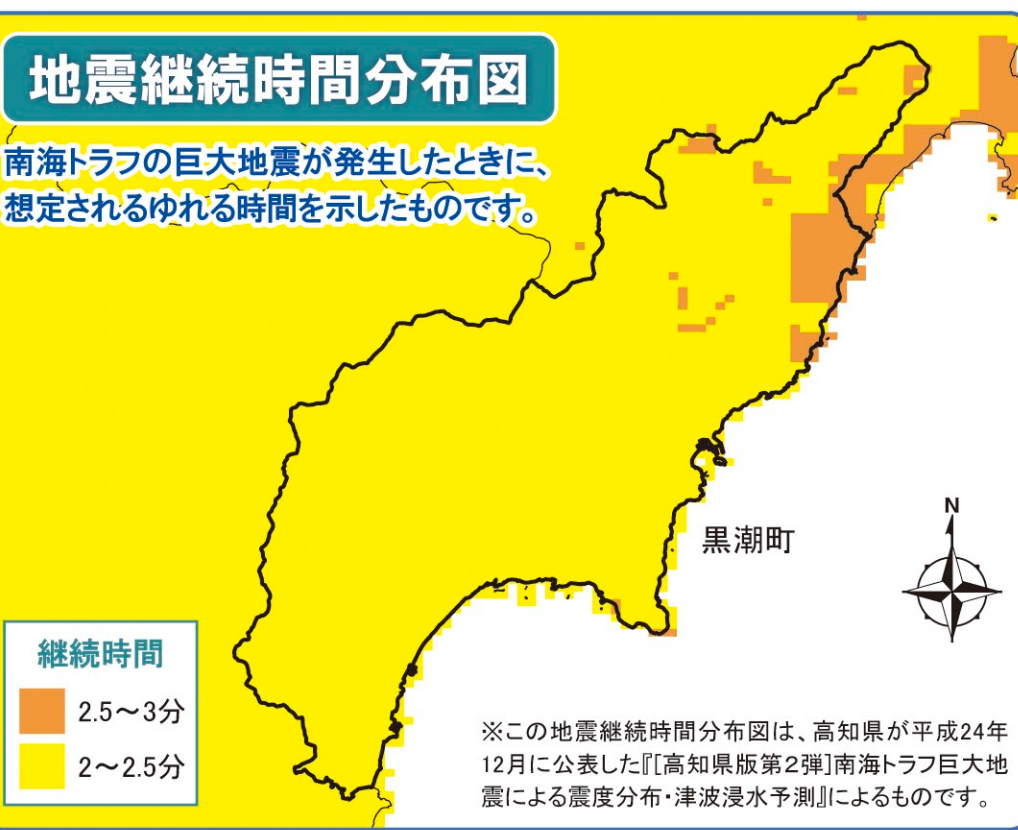
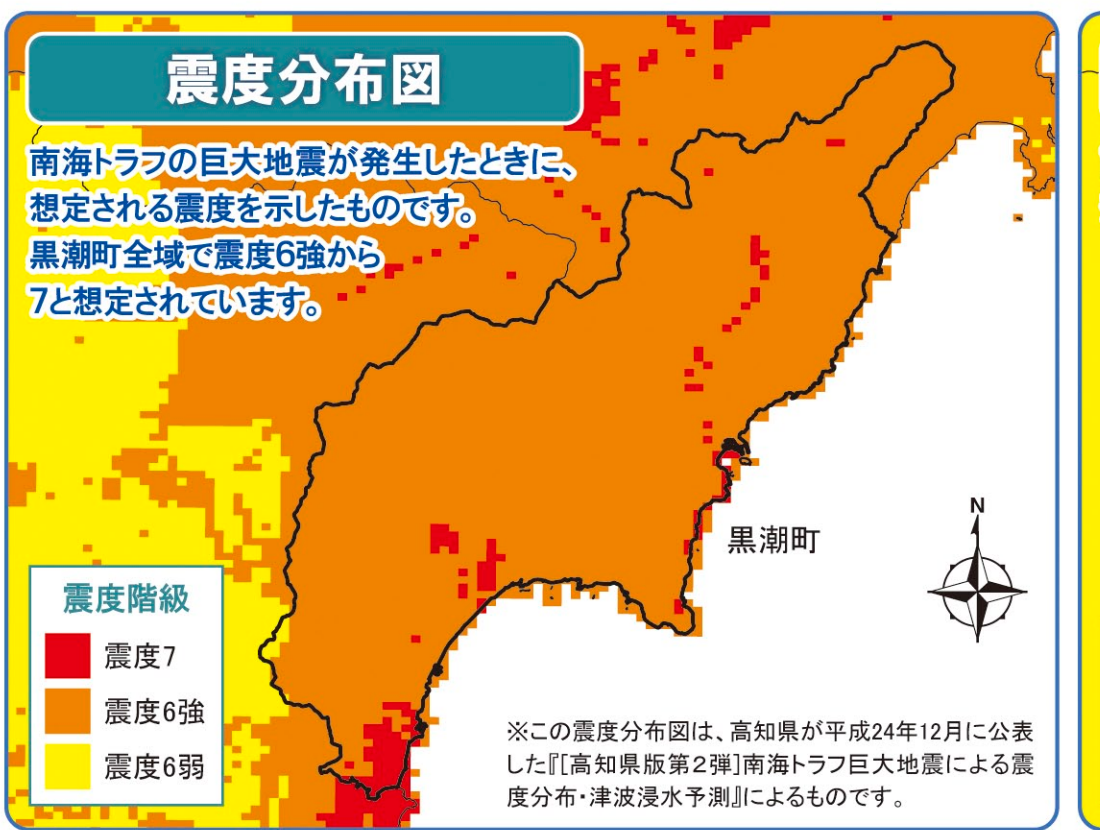
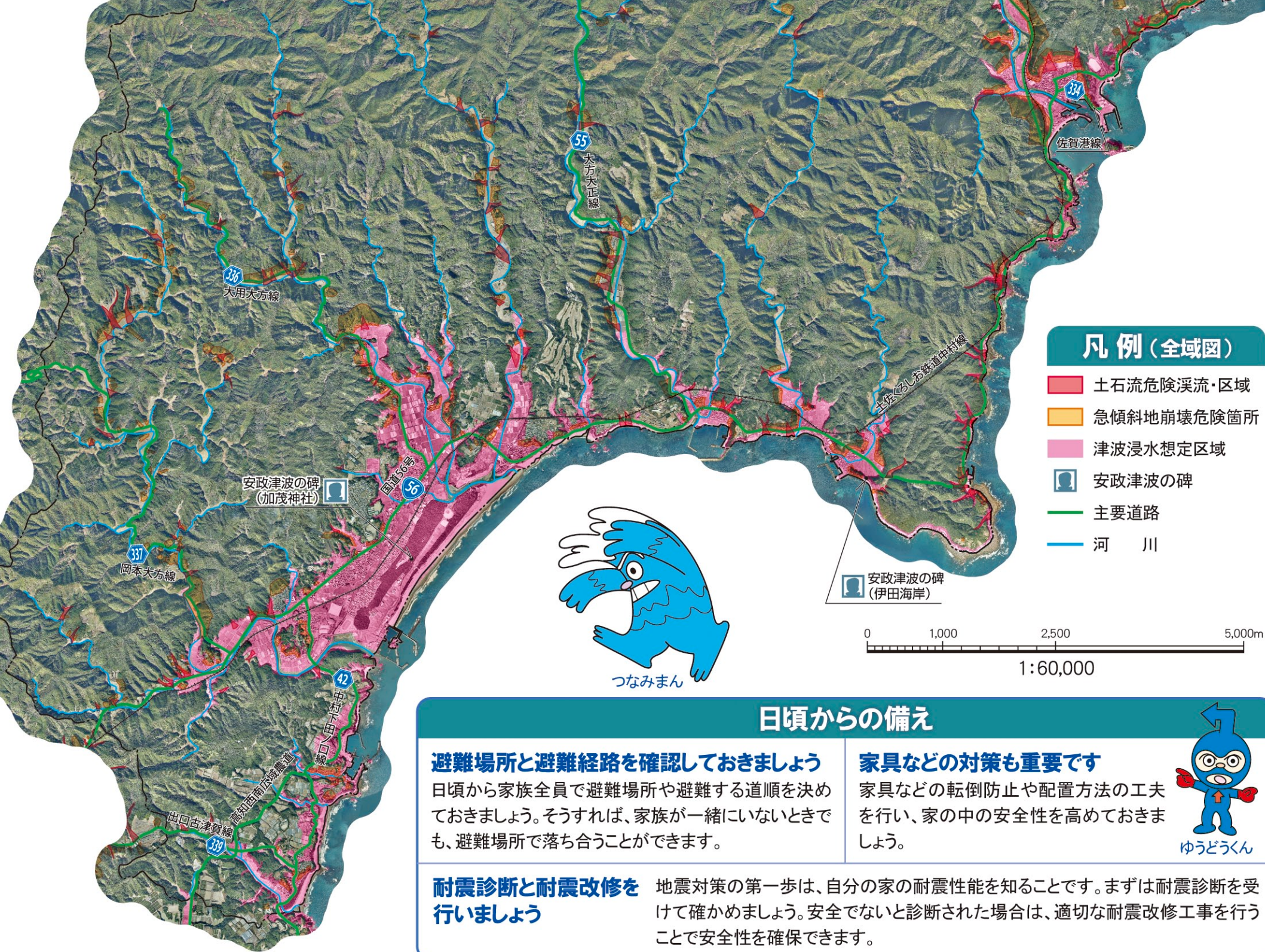
災害用伝言ダイヤル

大規模な災害が発生して電話がつながりにくいときは、安否の確認や連絡用に利用できる「災害伝言ダイヤル171」を活用しましょう。

伝言を録音する時は **①** → (○○○) (○○○) (○○○) → 伝言を吹き込む
伝言を再生する時は **②** → (○○○) (○○○) (○○○) → 伝言を聞く



©やなせたかし
たいさくくん



あきらめない!
揺れたら逃げる!
より早く!
より安全な
ところへ!



私たちの暮らす町は、
南海地震と津波により
これまでに大きな被害を
受けてきた地域です

私たちの暮らす町は、地震と津波によりこれまでに過去大きな被害を受けてきた地域です。
1854年の安政南海地震があり、その地震を記録した石碑が加茂神社、伊田海岸(金比羅神社の入り口)にあります。
伊田海岸の碑文の最後は「今後、百四十年、百五十年の後まで用心せよ。後世のために、之を記すと締めくくられています。
この碑の作者は南海地震は、100年～150年周期で起こることを知っており、将来の子孫に向けたメッセージを残したのだと考えられます。私たちは、先人が残した思いをしっかりと受け止め、次の南海地震に備えなければなりません。



伊田海岸 加茂神社

土砂災害危険箇所の種類と内容

土石流危険渓流・区域 (黒潮町内196箇所 H22.3現在)
谷や斜面に貯まった土・砂・石等が、梅雨や台風などの集中豪雨による水と一緒に、一気に流れ出してくるのが土石流です。

急傾斜地崩壊危険箇所 (黒潮町内341箇所 H22.3現在)
地面にしみこんだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちるのが、がけ崩れです「急傾斜地崩壊」といいます。

地すべり危険箇所 (黒潮町内該当箇所なし H22.3現在)
比較的緩やかな斜面において、地中の粘土層など滑りやすい面が地下水の影響などでゆっくりと動き出す現象を地すべりといいます。

地震が発生したら

- 地震の揺れから身を守る**
 - 落ち着いて、自分の身を守る
 - 火の始末、ガスの元栓を閉める
 - ドアや窓を開けて逃げ道を確保する
- 津波警報を待たずに、すぐに避難する**
 - 揺れがおさまったら、津波や土砂災害のおそれがある区域に居る人は、ただちに避難する
 - 「より高い場所」へ避難する
 - できる範囲で地域の要援護者の手助けをする
- 津波情報を入手する**
 - 安全な場所に移動してから、ラジオなどで情報を確認する
 - うわさ、デマなどに惑わされないように注意する
 - 安全が確認されるまで、自宅・沿岸部には戻らない
- 避難施設等へ移動する**
 - 津波警報が解除されたら、一時避難した場所から、避難施設などに移動し、家族と合流する
 - 避難生活では、集団生活のルールを守り、助け合いの心を持つ



じしんまん

高台への避難が
間に合わないときは
近くの津波避難ビルへ

津波警報が解除される
まで、家に戻らない!

地区拡大地図

NO.1 早咲・浜の宮・町・万行・入野本村・錦野・芝・地区名：緑野・下田の口・田野浦・出口・生華園

津波30cm到達時間リスト

No.	名称	時間
1	道の駅ビオスおおがた	約 21 分
2	国道56号 加持川橋付近	約 26 分
3	田村バス停付近	約 28 分
4	加持ふれあいセンター	約 35 分
5	入野 東浜林付近	約 27 分
6	浜の宮集会所	約 28 分
7	入野 長泉寺	約 31 分
8	入野 宮川公園	約 21 分
9	入野 西南大規模公園ラジコン場付近	約 22 分
10	入野消防屯所	約 32 分
11	入野児童公園	約 27 分
12	田の口消防屯所	約 20 分
13	下田の口 緑野団地前バス停付近	約 28 分
14	上田の口 田の口橋バス停付近	約 33 分
15	田野浦漁協	約 17 分
16	JA高知はた南都出張所	約 19 分
17	出口消防屯所	約 20 分

津波に関するサイン(目印)

津波注意
その場所の地盤の高さを表示しています。
5.0m 以下

津波危険区域
その場所の地盤の高さを表示しています。

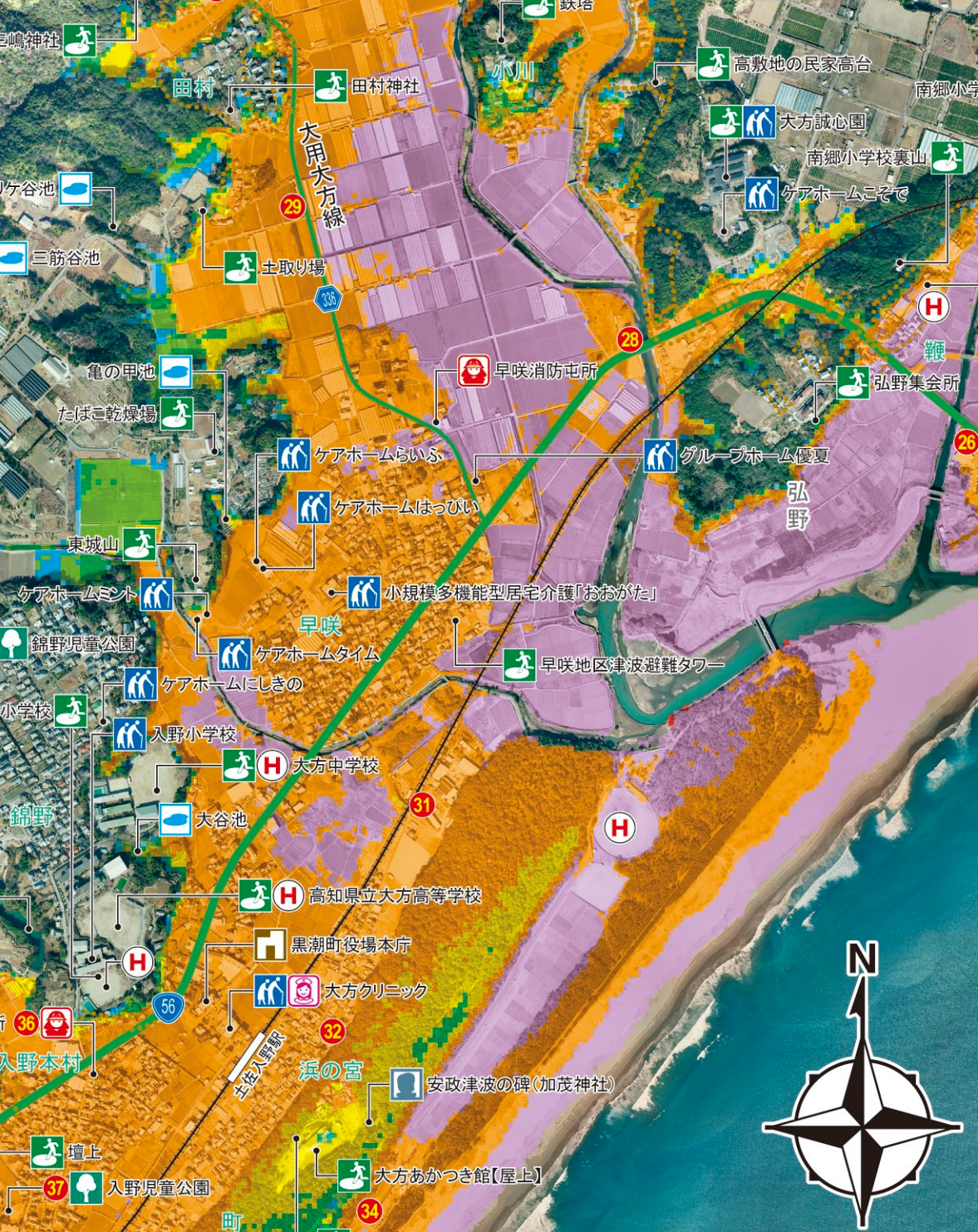
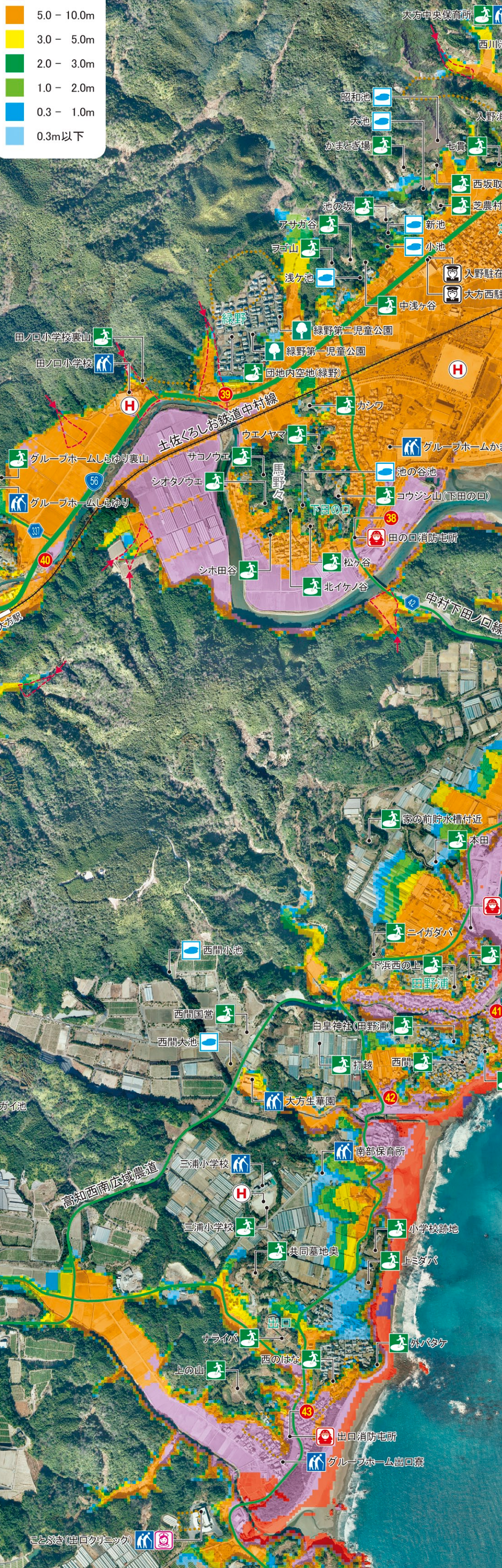
津波避難場所
国(消防庁)統一のマークです。
① 避難高台
② 避難ビル(避難可能な建物)



避難場所リスト

避難場所名	一次	二次	標高(m)
たばこ乾燥場	○	○	25.3
東城山	○	○	22.7
早咲地区津波避難タワー	○	○	19.0
大方あかつき館(屋上)	○	○	16.8
浜の宮地区津波避難タワー	○	○	17.4
町地区津波避難タワー	○	○	16.8
万行地区津波避難タワー	○	○	18.2
入野小学校	○	○	17.4
大方中学校	○	○	18.1
高知県立大方高等学校	○	○	21.2
大方中央保育所	○	○	25.7
錦野児童公園	○	○	40.3
入野墓地公園	○	○	48.1
壇上	○	○	21.9
池の坂	○	○	26.8
芝農村公園	○	○	19.3
七貴	○	○	26.8
中浅ヶ谷	○	○	14.2
西坂取谷	○	○	29.7
かまどぎ場	○	○	30.2
アサガ谷	○	○	24.6
コウジ山(下田の口)	○	○	27.2
ウエノヤマ	○	○	19.2
カシワ	○	○	18.0
ラゴ山	○	○	27.3
松ヶ谷	○	○	23.0
シホ田谷	○	○	22.7
シオタノエ	○	○	25.1
北イケノ谷	○	○	25.9
サコノエ	○	○	41.8
団地内空地(緑野)	○	○	23.8
森間	○	○	19.2
下浜西の上	○	○	24.5
白堂神社(田野浦)	○	○	19.1
土居間	○	○	20.9
ドヤマ高台	○	○	18.9
西間	○	○	23.0
三浦小学校	○	○	33.7
本田	○	○	20.9
家の前貯水槽付近	○	○	36.6
ニイダバ	○	○	30.2
打越	○	○	28.3
西間国営	○	○	28.8
上ミダバ	○	○	23.6
小学校跡地	○	○	23.0
外バタケ	○	○	21.7
西のはな	○	○	21.1
上の山	○	○	32.9
共同墓地奥	○	○	24.8
ナライバ	○	○	26.4
田ノ口小学校裏山	○	○	21.1

【一次】→一次避難場所(災害時にまず避難する一時的な場所・施設)
【二次】→二次避難場所(避難が長期にわたる場合の避難場所)
※災害の状況により、二次避難場所を変更する場合があります。



凡例 (地区拡大地図)

- 土石流危険渓流・区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 避難場所
- 災害時要援護者施設
- 役場・支所
- 駐在所
- 消防署・消防屯所
- 医療施設
- 災害用ヘリポート
- 安政津波の碑
- 港湾・漁港
- 公園
- ため池
- 主要道路
- 津波30cm到達時間リストの位置

津波の特徴

- 引き潮から始まるとは限りません。
- 繰り返しておそってきます。
- すばやくおそってきます。
- すさまじい破壊力を持っています。

●沖では時速約700kmの速さで、岸に近づいても新幹線なみの時速約250km(1秒間に70m進む速さ)で押し寄せてきます。

●入り組んだ海岸では波が集まり、波高が急激に高くなったりします。

非常持出品

災害に備えて、非常持出品を準備しましょう

- 非常食品**
3日分の水と食料が目安
- ラジオ**
正確な情報収集が大切
- 貴重品**
小銭も意外と役に立つ
- 救急医療品**
万のけが等に備えましょう

懐中電灯 年一度は、電池のチェックを忘れずに

浸水想定条件

このハザードマップに示す津波浸水深は、高知県が平成24年12月に公表した「[高知県版第2弾] 南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測」によるものです。

想定地震	南海トラフの巨大地震
地震規模	マグニチュード9.1
津波予測における構造物の取り扱い	堤防 土で築かれた堤防は、地震が起こった時点で地震前の高さの25%とする。また、津波が継続し始めた時点でなしとする。 防波堤 コンクリート構造物は地震により破壊するとし、はじめから「なし」とする。 水門等 施設が耐震化され、ゲートが自動降下対策済み、または常時閉鎖の施設は閉まっているとする。それ以外は開いているものとする。

●これは、最も大きな津波が発生する可能性があります。
●浸水域や浸水深等は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場合があります。
●浸水域や浸水深等は、地盤の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水域がさらに大きくなったりする場合があります。